

グリーンイノベーションに向けた 文部科学省の取組について

平成24年6月
文部科学省

地球温暖化への適応策に対する取組の方向性について

主な政策課題

- ✓ 最新科学的知見では、最も厳しいCO2削減対策をしても今後数十年の**地球温暖化の影響は回避できない**。
- ✓ 温暖化への「適応」は、各国共通の「グローバルアジェンダ」であり、我が国の強みを活かして貢献すべき課題。
- ✓ 平成23年12月、エネルギー・環境会議の基本方針で、「政府全体での適応対策の計画的取組に着手する」とされ、温暖化影響への**適応策を関係府省で連携して、総合的、計画的に取り組む必要性**が指摘。
- ✓ 環境省の中央環境審議会において、地球温暖化対策について**政府全体の適応計画**を早期に策定するための具体的な検討が開始。

重点的取組

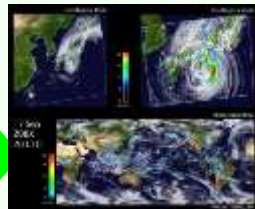
- ✓ 文部科学省では、地球観測技術の開発、気候変動予測技術開発、また、得られたデータを適応策に資する科学的知見として提供できるよう解析処理するための共通プラットフォームを構築し、気候変動リスク管理に向けた具体的な適応策立案に資する基盤情報の創出に関する研究開発を統合的・一体的に推進。
- ✓ 今後は、科学的知見の提供にとどまらず、環境省や気象庁に加え、農林水産省や国土交通省など適応策を実施する省庁とも一体となって**我が国の適応戦略策定に必要な体制の構築**を図ることが重要。

地球観測データ（温室ガス濃度等）

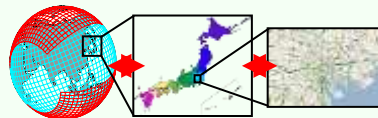


地球観測データ等の提供

気候変動予測



モデル開発



データ同化、ダウンスケール技術

観測データ・予測情報等の提供



得られたデータを科学的知見として提供するための解析処理するためのデータ統合・解析システムの開発

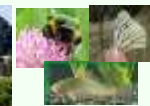
適応策に資する科学的知見として提供

- ・我が国の事業官庁による影響評価の取組や適応策立案に大きく貢献
- ・アジアをはじめ諸外国の課題解決にも貢献

<貢献可能な分野例>



水資源管理



生態系への影響農林水産業

我が国の適応戦略策定に必要な体制の構築

グリーンイノベーションの実現に向けた政策課題

- 基礎的な研究開発を、いかにイノベーションに結びつけ、課題の達成に貢献するか
- 出口を見据えて、（自然科学系の）研究者のみならず、さまざまなステークホルダー（企業、自治体、社会科学系研究者など）の参画を得るための工夫

→文科省と経産省が合同で有識者会議を開催。エネルギー分野において2030年 頃の実用化を目指して取り組むべき革新的技術を特定するとともに両省連携の仕組み等について議論

→環境省・気象庁とともに気候変動予測の研究成果を国交省・農水省等の適応対策に結びつける体制の構築を検討

- 国際社会における我が国の地位や強みを活かした研究開発

→蓄電池について、今後の産業戦略を念頭に置いた研究開発の推進を検討

→地球観測から気候変動予測までの一貫体制の成果をアジアをはじめとした周辺地域に展開

→観測データ・予測情報を、温暖化対策のみならず、食料、防災などの他分野へ積極的に活用

- グリーンイノベーションの研究開発の体制強化

（参考）JSTでは本年度より組織を改編し「環境エネルギー研究開発推進部」を創設

- 原子力エネルギーの扱い（特に安全研究、人材育成）